ハンドマイク街頭演説原稿例　終戦記念日にあたって

二〇二五年八月十日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、八月十五日は、八十回目の「終戦の日」です。日本が行ったアジア・太平洋戦争により、二千万人を超すアジアの人々と、三百十万人以上の日本国民が犠牲となりました。戦争の犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、戦争の悲劇を二度と繰り返さないため、日本共産党は平和を求める国民のみなさんと力を合わせてがんばります。

　先の戦争の反省に立ち、「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意」して作られたのが、現在の日本国憲法です。九条第一項で戦争を放棄し、第二項では陸海空軍などの戦力を持たないことと、国の戦争する権利を認めないことを規定しています。また、戦前は不十分だった人権についても、三十カ条にわたって、きわめて豊かで先駆的な人権規定が盛り込まれています。世界に誇る日本国憲法を生かした日本を、ご一緒につくっていこうではありませんか。

　ところでみなさん、今の石破自公政権の態度はどうでしょうか。安保法制＝戦争法以来、日本を戦争する国に作り変え、日本が戦争に参加する危険性をどんどん高めてきた歴代自公政権の政策を引き継ぎ、ますます加速させようとしています。今年の予算では、防衛費は八兆七千億円と、この三年間で一・六倍に膨れ上がりました。教育などの予算である文教費の二倍以上という規模です。しかも、二年後の二〇二七年度にはＧＤＰ・国内総生産の二％にあたる十一兆円規模まで防衛費を増やそうという計画です。こんなにたくさんの防衛費を確保するためには、増税だけでは足りず、私たちの生活を支える社会保障や教育、中小企業や農業などの分野の予算をけずらなければ間に合いません。これでは、私たちの生活も日本経済もこわれてしまうのではないでしょうか。

　いまやるべきは、戦争の準備ではありません。外国の脅威があるからと日本の軍備を強化すれば、脅威とされた国も対抗して軍備をさらに強めるという悪循環を招き、戦争に直結するということは、日本と世界の歴史がすでに証明しています。軍備拡張では平和は守れません。今必要なのは、国同士のもめごとを戦争にせず、話し合いで解決する外交ではないでしょうか。そしてこの理念を形にしたのが、日本国憲法です。日本共産党は、この立場で東アジアを平和の地域とするためにがんばります。

　みなさん、今の日本の政府は、軍事も経済も、なんでもアメリカ言いなりで、アメリカから求められたら何も考えずに従い続けてきました。こんな政治を続けて、私たちの生活はよくなるのでしょうか。日本共産党は、なんでもアメリカ言いなりの政治から抜け出すことを提案しています。日本共産党へのご支援、ご協力をよろしくお願いします。

　自民党の裏金問題を最初に取り上げた、日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をこの機会にぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）